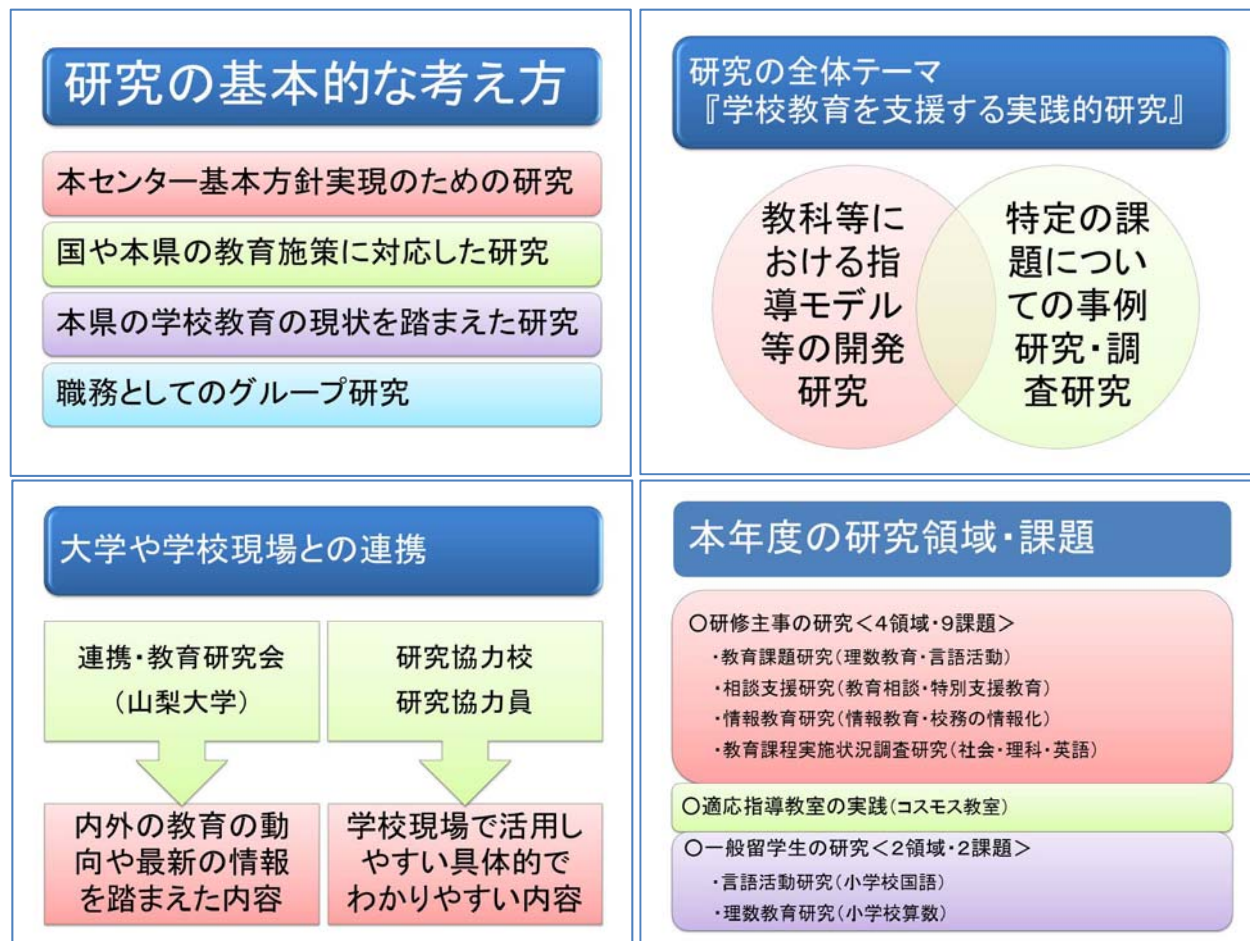


〈センター研究全体のテーマ〉

「学校教育を支援する実践的研究」



■ 教育課題研究

「理数教育」(3年計画の3年目)

【研究主題】 理数教育の充実を目指して

—実態調査等の分析を受けた単元の指導モデルの作成と検証授業を通して—

【研究の概要】

1年目の研究では、小学校高学年段階から中学校段階での算数・数学、理科の学習内容について、県内生徒(抽出)及び教員(県内算数・数学、理科主任)にアンケートを実施することで、単元ごとの自信指標、興味指標、自らの将来との関係把握指標についての実態を把握することができた。また、小・中学校教育課程実施状況調査および全国学力・学習状況調査の調査結果から全国との比較を行うことで、児童生徒の学力や生活習慣、学習環境等に関する実態を把握することができた。

これらの分析結果を基に、2年目の研究では、小学校における定着の度合いに課題があると考えられる単元を対象として、思考力・表現力の向上を目指す言語活動の在り方に焦点を当てた指導モデルの作成及びその検証授業を行い、授業改善の一例を提案した。単元は、算数では「比例をくわしく調べよう」、理科では「電磁石の性質」である。

そして、3年目の研究では、昨年度の研究で課題として残った思考の深まりやICT機器の能動的な活用方法についての改善を図りながら、中学校における定着の度合いに課題があると考えられる単元である数学の「1次関数」と理科の「電流」「化学変化とイオン」「地球と宇宙」を対象として、思考力・表現力の向上を目指す言語活動の在り方に焦点を当てた指導モデルの作成及びその検証授業を行った。

…資料番号 A-1

「言語活動」(2年計画の2年目)

【研究主題】 言語活動の充実を図る学習指導の在り方
—学習意欲の高まりにつなげる教科・領域を超えての言語活動の一試案—

【研究の概要】

本研究では、昨年度、国語科における言語活動を他の教科が踏まえ、それぞれの教育活動に取り入れていくことが、その教科の目標達成に有効であるという研究結果を得て、各単元のねらいを達成するために有効な言語活動を選定していくツールとして「単元構想図」の開発を行った。本年度は、作成した「単元構想図」を総合的な学習の時間に活用し、言語活動を軸にして、各教科や特別活動と密接に関連した指導モデルを構築するとともに、その有効性について検証を行った。 …資料番号 A-2

■ 相談支援研究

「教育相談」(2年計画の1年目)

【研究主題】 いじめ・暴力予防とプログラム開発のための研究
—各種課題における調査研究といじめ解決大作戦BIGの効果検証—

【研究の概要】

学校でいじめ・暴力問題を予防するための教育的活動が積極的に取り組まれるようになるために、確かな情報発信とプログラム開発を行う。

本年度は、学校で予防プログラムが積極的に取り組まれるための基盤づくりとして、いじめ・暴力問題に関する確かな情報発信のための調査研究と予防プログラム開発のための試行としての実践研究に着手する。調査研究では、いじめや暴力問題の各種課題に関する情報発信を行う。具体的には保護者の視点からのいじめ問題、山梨県内のいじめ解決事例、いじめと自殺、ネット社会におけるいじめやトラブルの問題と取組についての4領域を調査した。実践研究では、いじめ・暴力を容認してしまう態度の変容を目的とした授業案及び教材「いじめ解決大作戦BIG：Bullying Imagination Game」を作成し、その効果検証を行った。 …資料番号 B-1

「特別支援教育」(1年計画の1年目)

【研究主題】 高等学校における特別支援教育に関する研究
—発達障害等のある生徒の支援に関する調査を通して—

【研究の概要】

本研究では、山梨県公立高等学校の教員を対象とし、発達障害等のある生徒の実態とその支援状況に関する調査を実施することにより、高等学校における発達障害等のある生徒の支援に関する課題の焦点化と対応策の方向性を探った。また、発達障害等のある生徒への指導・支援に関する全国の先進校の状況について調査研究し、参考となる実践を県内高等学校に還元することにより、発達障害等のある生徒の指導・支援の充実を図った。 …資料番号 B-2

■ 情報教育研究

「情報教育」(2年計画の1年目)

【研究主題】 ICTの効果的な活用に関する研究
—小学校におけるICTを活用した授業デザインの作成・収集・発信—

【研究の概要】

本研究では、県内の小学校の教科・領域の学習において、教育現場の実態に合った「ICT活用授業デザイン」を作成し、活用することで、児童の関心・意欲の向上、知識・理解の深まりに加え、思考力・判断力・表現力の向上をねらった。具体的に小学校第6学年の理科「水よう液の性質とはたらき」を取り上げ、その効果について検証を行った。

本研究により収集、分類・整理した「ICT活用実践事例」を、総合教育センターのホームページ上で活用できる環境を構築し、学校現場でのICTを効果的に活用した授業の支援を図った。 …資料番号 C-1

「校務の情報化」（2年計画の2年目）

- 【研究主題】 学校と教育センターをつなぐ研修情報システムの在り方
－ICTを活用した研修運営と受講者のユーザビリティの向上－

【研究の概要】

前年度の研究成果を踏まえ、山梨県総合教育センターにおける研修会運営のためのシステムである「研修情報システム」を、研修受講者側のユーザビリティの向上と研修運営担当者の処理の効率化の視点からシステムの具体的な処理系の改善を行い、その成果を検証した。

…資料番号 C-2

■ 教育課程実施状況調査研究

- 【研究主題】 確かな学力の定着を目指した学習指導の在り方
－山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査の分析を通して－

【研究の概要】

小学校及び中学校の児童生徒の学力実態や課題等について調査研究し、分析したデータに基づき学習指導の在り方を探った。調査研究にあたっては、全国学力・学習状況調査を補完する調査と位置付け、その調査で未実施の小学校6年の社会、理科と中学校3年の社会、理科及び英語を具体的な研究対象教科とした。

まず、児童生徒の学力及び学習状況を、全国の平均正答率（全国における実施校全体の値）と比べながら把握した。次に、その値が低く補強を要する点（課題点）に重点を置いた授業改善プランを作成した。また、授業改善プランに基づく具体例として、以下に示す学年・単元において提案授業を行った。

- ・社会：小学校第5学年「世界とつながる自動車」 中学校第2学年「身近な地域の調査」（地理的分野）
- ・理科：小学校第5学年「物のとけ方」 中学校第2学年「電流と磁界」
- ・英語：中学校第2学年「Program6 A Work Experience Program」（Sunshine English Course2）

■ こすもす教室の実践

- 【主題】 適応指導教室の運営とその実践
－適応指導教室での実践と連携による子供たちへの支援－

【実践の背景】

不登校やニートの問題は、社会全体に大きな影を投げかけている。増加傾向にあった不登校児童生徒の全国的な数については、学校をはじめとした各関係機関の努力により、ある一定の歯止めがかかったが、いまだに高い数値で横ばい状態が続いている。平成25年に内閣府が発表した「子ども・若者白書」によると、若年無就業者（ニート）は全国で60万人にものぼると言われている。家庭の中に引きこもり、社会に貢献できずにいる若者が存在することは、日本の社会にとって大きな問題になっている。

山梨県においては、平成19年度に不登校児童生徒の出現率が全国ワーストナンバーワンであった。そのことを踏まえ、学校、児童生徒に関わる様々な機関の努力の結果、減少傾向を示し始めていた。しかし、その数については依然800名を超える状況が続いている。さらに、平成25年度の調査結果では、一転して、増加の傾向に移った。まだまだ十分な解決に至っていないということが言える。

こすもす教室には、毎年100名前後の子供たちが通室している状況が続いている。こすもす教室が開設されてから16年が経過したところであるが、減少していく傾向は余り感じられない。しかし、開設当初とは子供たちの状況が違った様相を示し始めている。不登校になってしまったきっかけや原因が様々なものになってきているのである。特に、ここ数年増加傾向にある、貧困が招く様々な家庭的な要因や発達障害の2次的要因の不登校が、心理的な要因の不登校を上回っていると言える。

このような状況を打開し、不登校児童生徒の減少のため、こすもす教室では一人一人の実態に応じた教育活動を展開している。しかし、不登校児童生徒の様相が多様化してきたことにより、その対応の難しさを実感している。今回の実践発表では、そのような困難な状況の中で、こすもす教室において、どのように子供たちに対応をしているかを紹介する。

「小学校国語に関する研究」

【研究主題】 言語活動の充実を目指した小学校国語科「書くこと」の指導の在り方に関する研究
—報告する文章を書く指導を通して—

【研究の概要】

本研究は、小学校国語科「書くこと」の領域において、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を育成することをねらいとして、言語活動の充実を目指した指導の在り方を追究するものである。小学校学習指導要領の言語活動例に示された報告する文章を書く指導を通し、指導の在り方を具体化した。

具体化にあたっては、児童が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確にし、「単元を貫く言語活動」を指導に位置付けた。このような単元構想を進めるために「児童に身に付けさせたい書くことの能力を明確にすること」「育成すべき能力を身に付けさせるための指導過程を構想すること」「児童の思考・判断を促す手立てを具体化すること」に取り組んだ。

この3つの取組を生かした単元構想に基づく検証授業を、第3学年「『野さいのひみつブック』をつくろう！」の単元において行った。

「小学校算数に関する研究」

【研究主題】 数学的な思考力・表現力を高める指導の在り方に関する研究
—数量の意味を考える算数的活動の充実を通して—

【研究の概要】

本研究は、小学校算数の問題解決的な学習展開を重視し、数量の意味を考える算数的活動を充実させることを通し、児童の数学的な思考力・表現力を高める指導の在り方を追究したものである。

問題解決の過程においては、解決の見通しをもつことと振り返ることが大切となってくる。見通しを基に仲間と学び合い、その学びを振り返ることが、数学的な思考力・表現力の育成や学習内容の確実な定着、学習意欲の喚起の上でも重要となり、思考したり伝え合ったりする算数的活動の設定が大切となってくると考えた。問題解決的な学習展開において「見通す」「振り返る」段階を重視し、数量の意味を考える算数的活動を位置付けた授業実践を行うことにより、数学的な思考力・表現力を高める指導展開例を作成した。この指導展開例に基づく検証授業を、第3学年「はしたの大きさの表し方を考えよう（小数）」の単元において行った。

〈研究に関するお問い合わせ先〉

山梨県総合教育センター研究開発部

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1456(直通) TEL 055-262-6180 FAX 055-262-8731

e-mail: kenkyubu@kai.ed.jp